

踏み跡 <My Mountains>

東京	愛宕山(東京都で一番低い山・続篇)	No.318
----	-------------------	--------

浅草の待乳山を東京都で一番低い山として登ってきたが、三角点がある山としては愛宕山が一番ではないかとの情報も得た。ならばこちらもということで、登って見ることにした。国土地理院の地形図には 25.7m の三角点が記されている。

平成 23 年 7 月 4 日

3 月 11 日の大地震により、地震と津波とによる被災者と原発の事故による避難者と二種類の避難者が発生した。福島県南相馬市の住民は南会津町に避難した。芝浦工業大学が南会津の高杖にセミナーハウスを持っていることから、同大学が避難者の皆さんに憩いのひとときを楽しんでいただくためにセミナーハウスの解放日を設けることになり、歓迎イベントのひとつとして開く落語会全面的に協力することになった。第一回目の打合せとして豊洲キャンパスへ出向く日、ついでに愛宕山登山をということにした。



天気は快晴、やや蒸し暑さが加わって、都心の散策には不適かなと思いましたが……。
打合せが終わって 14 時半、豊洲から新橋行のバスに乗った。新橋から愛宕山まで歩くつもりでいたが、いざ外の暑さに触れて見たら、少しでも涼しいルートを選ぼうと心変わり。折角乗ったバスを銀座四丁目で下りて、地下鉄銀座線に乗り換えて虎の門へ。それでも楽なのは電車に乗っている間だけで、表に出てしまえば頭上から照らす太陽とアスファルトからの輻射熱で 5 分も進まぬうちに汗だくになってしまった。

西新橋一丁目交差点から、南南西へ歩き愛宕山下のバス停を右折すると裏参道が始まる。左にカーブしながらゆるやかに登って行くと、木々の間にお寺の屋根が見下ろせたり、マンションの横っ腹が見えたりで、都心の山登り(?)らしい景色が面白い。登って行くにつれて木々の緑は深くなり、山の西側に回るように登って行くと頂上の愛宕神社本殿の脇に飛び出した。都心のど真ん中とも思えぬような深い樹林の中の山頂。そのまま東(山の正面)へ進んでみると懐かしい表口の急な石段が下に向かっていた。



初めてこの石段を登ってみたのは中学生の時だった。曲垣平九郎が馬で駆け上がったという伝説があるこの石段が気になって見に来たような気がする。石段の降り口のすぐ脇の弁天様の入り口に「三角点」と書いた立派な石柱が建っているのが見えた。何とその石柱の下には堅牢そうなコンクリートの箱

が埋められているばかりか、鉄板の蓋が閉まっていて「海拔 25.7m の三角点」を確認することはできなかった。

地図を眺めて見ると、麻布の台地が平野の飲み込まれようとする所が芝の増上寺から愛宕山にかけての小山。この小尾根の東側にはもうこれより高い所はないので、昔は芝の浜や房総の山波を望むことができたと思われる。

狭い頂上の中にある神社の神殿や池の鯉などを眺めただけで下山することにした。急な石段を下った後で、もう一度登り返して見て「愛宕山」を再確認した。

最後に石段の一番下から見上げて見たら、50 年以上前に見て驚いた傾斜とあまり変わっていなかった。

午後の日差しはまだ強く、自動販売機で買った飲み物を飲みながら新橋駅まで歩いた。京浜東北線で上中里まで行き、やや早めの夕食を食べて銭湯で汗を流したら爽やかさが蘇って生き返ったようだった。銭湯から出て、銭湯の二階のコミュニティセンターで落語を楽しんで、本日の旅は幕を閉じた。

以上